

「ベンチャー開発戦略研究センター」キックオフ・シンポジウム開催

1月27日(月)、産総研・ベンチャー開発戦略研究センターでは、東京會館(丸の内)において、「技術シーズを起業につなぐ研究システム改革に向けて」をテーマに、「ベンチャー開発戦略研究センター」キックオフ・シンポジウムを開催しました。



シンポジウムは、吉川弘之 ベンチャー開発戦略研究センター長(産総研理事長)の挨拶で始まり、榊原清則 慶應義塾大学総合政策学部教授による「ベンチャー開発戦略研究センターへの期待と注文」、Dr. Hannu Hanhijarvi (Director of Life Sciences, Finnish National Fund for Research and Development [SITRA], Finland)による「フィンランドにおける起業支援のための公的ファイナンス」、井出祐二 PIXERA Corporation 社長兼CEO(最高経営責任者)による「21世紀の新しいベンチャービジネスモデル - シリコンバレーからの提言 -」、大滝義博(株)バイオフロンティアパートナーズ 代表取締役社長による「日本のスタートアップスに求められるもの」の講演がありました。最後に吉海正憲 ベンチャー開発戦略研究センター次長からは本研究センターの構想についての説明があり、シンポジウムを閉会いたしました。

今回のシンポジウムは、日本型ベンチャー創出システムの構築のために必要な方策について、外部の200名を超える参加者の方々と共に検討し、連携に向かって交流を深められたものと確信しております。

http://www.aist.go.jp/aist_j/topics/to2003/to20030203/to20030203.html

資源開発と地域社会に関する国際円卓会議開催

1月14日(火)~15日(水)、産総研・地圏資源環境研究部門では、つくば国際会議場において、円卓会議「Round Table Meeting on Good Practice and Effective Methods on Risk Communication Between Mineral Property Developers and Local Communities」を開催しました。この会議は資源開発と環境保護、地域社会の発展を実現するために必要なリスク・コミュニケーションについて検討するために開催したものです。

会議では技術、法律、経済、コミュニケーション等の複数の視点から各国の開発事例を検討し、さらに心理学者と人類学者から成るパネルによるフィードバックが行われました。

参加者が30人弱と小規模な会議でしたが、心理学者のコーディネーターするロールプレイも行われ、充実した内容となりました。なお、本会議の報告書は英文で3月末に印刷される予定です。

第1回環境調和技術研究部門研究発表会開催

産総研・環境調和技術研究部門では、1月20日(月)に東京虎ノ門の石垣記念ホールにおいて、「グリーンケミカルプロセスの構築を目指して」と題した研究発表会を開催しました。



当日は、部門の紹介の他、部門の重要な柱の一つである、グリーンケミカルプロセス構築に関する課題を中心に研究発表を行いました。また、京都大学植田和弘教授による「循環型社会への転換を考える - 環境経済性の観点から -」、今井保環境調和技術研究部門研究顧問による「米企業研究開発の一例 - UOPでの研究紹介 -」がありました。一方会場ロビーでは、各研究グループの主要課題をポスター発表し、民間企業の方々等と活発なディスカッション・情報交換を行うことができました。

今回の研究発表会は200名を超える方々に参加いただきました。これはグリーンケミカルプロセスや資源循環プロセスへの関心、期待の大きいことの現れであり、今後、さらに充実した部門研究発表会を企画していきます。

基礎素材研究部門研究講演会

産総研・基礎素材研究部門では、21世紀が目指す持続可能な社会の実現に向け、長寿命で再資源化が容易な材料の研究・技術開発に、学界や産業界等の連携の下、東北、中部、九州、中国の各地域センターを拠点として取り組んでいます。今年度はその拠点を中心に4回の研究講演会を開催しました。



第3回講演会は、1月15日(水)に(財)福岡県中小企業振興センターで開催し、「サステナブルマテリアルの創製を目指して - ナノ構造制御による材料の高機能化 -」をテーマに、各拠点で行われている5件の講演と特別講演「圧電セラミックスのドメイン構造と物性」(東京工業大学鶴見敬章教授)がありました。

1月31日(金)には、第4回研究講演会を広島ガーデンパレスにおいて開催し、「明日を支える材料技術」をテーマに、エネルギー・環境問題の解決、エネルギー効率の高度化に関する4件の講演と特別講演「水素エネルギーと燃料電池」(広島大学大学院竹平勝臣教授)がありました。

1月31日(金)には、第4回研究講演会を広島ガーデンパレスにおいて開催し、「明日を支える材料技術」をテーマに、エネルギー・環境問題の解決、エネルギー効率の高度化に関する4件の講演と特別講演「水素エネルギーと燃料電池」(広島大学大学院竹平勝臣教授)がありました。

<http://unit.aist.go.jp/kyushu/kouenkai2003-1houkoku.html>

⚡ パロ、総合科学技術会議で披露



1月28日(火)に総理大臣官邸で開催された「総合科学技術会議(第24回)」に、産総研・知能システム研究部門で研究・開発した「パロ」が披露されました。

この会議では、最近の科学技術の動向として、我が国のロボット技術の現状と将来についての報告と議論が行われ、そこでロボット研究成果のひとつとして、最もセラピー効果あるロボットとして注目されている当所の「アザラシ型のロボット“パロ”」が紹介されたものです。

(写真提供:内閣広報室)

http://www.aist.go.jp/aist_j/topics/to2003/to20030218/to20030218.html

⚡ つくば奨励賞受賞



2月7日(金)、つくば国際会議場において、2002年度つくば賞・つくば奨励賞授与式および受賞記念講演会が行われました。

産総研からは、一村信吾 極微プロファイル計測研究ラボ長、野中秀彦 同主任研究員、黒河明 同主任研究員、中村健 同主任研究員のグループが「超高濃度オゾン発生・供給装置の開発と応用分野開拓」でつくば奨励賞(実用化研究部門)を、湯浅新治 エレクトロニクス研究部門スピントロニクスグループ主任研究員が「単結晶強磁性トンネル素子」でつくば奨励賞(若手研究者部門)を受賞しました。

つくば奨励賞は、茨城県内において、科学技術に関する研究に携わり、その研究成果が実用化される等の成果を取めた者、もしくは若手研究者であって今後飛躍的な研究成果が期待できる者、に授与されます。

http://www.aist.go.jp/aist_j/topics/to2003/to20030207/to20030207.html

⚡ 第2回つくばテクノロジー・ショーケース開催

1月30日(木)、つくば国際会議場において、第2回つくばテクノロジー・ショーケースが開催されました。産総研からの12件をはじめ、つくばの産学官の研究



機関から112件の口頭・ポスター発表があり、技術の概要説明を求めて訪れる方々に、研究者や技術者が積極的に対応する姿も見受けられました。

本ショーケースは、つくばサイエンス・アカデミーの主催で開催されているもので、全国の研究者、企業人を対象とした「産直・研究フリーマーケット」を基本コンセプトとしています。通常の展示会と異なり、研究者や技術者と直接話が出来るというメリットがあるため、研究成果や技術のシーズとニーズの合致を求める人達が多く訪れました。今後の共同研究や製品化など具体的な話への進展が期待されます。

http://www.aist.go.jp/aist_j/event/ev2003/ev20030130/old_ev20030130.html

⚡ AIST BOOKS 第4巻 「知能システム技術」刊行

産総研で行われている研究の意義や将来性、そして課題や産業界との連携について紹介している「産総研シリーズ」。その第4巻「知能システム技術 -コンセプト志向の発想-」が刊行されました。今回は、産総研の情報・通信系研究ユニットのうち、IT技術を活用し、情報機器や機械・産業システムなど実社会で使われる様々なシステムを知能化するための技術を研究している知能システム研究部門を紹介しています。

産総研において行われている「本格研究」を中心とした取り組みを示した本シリーズは啓蒙書としてばかりでなく、産学官連携の指針を与えるものとして教育機関の参考書や企業の教育用テキストとしても最適です。



■産総研シリーズ 第4巻 知能システム技術 - コンセプト志向の発想 -

独立行政法人産業技術総合研究所
知能システム研究部門編
丸善(株)発行、266頁、ISBN 4-621-07210-2
本体価格 1,500円+税
全国有名書店でお買い求めください。